

# こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学  
青森中央短期大学  
青森中央経理専門学校  
青森中央文化専門学校  
認定こども園  
青森中央短期大学附属第一幼稚園  
認定こども園  
青森中央短期大学附属第二幼稚園  
認定こども園  
青森中央短期大学附属第三幼稚園  
中央文化保育園  
浦町保育園



撮影：青森中央学院大学経営法学部1年 HO NGOC KHANH

特集：平成25年度就職状況

  
vol.90

## 目次

特集：平成25年度  
就職状況

2

青森中央学院大学

6

学位記授与式

- ・入学式
- ・国際交流センターより
- ・『点描～変わりゆく現代社会』出版
- ・平成25年度青森市文化賞・スポーツ賞受賞
- ・学生カフェ「colorful」を運営して
- ・青森県立青森西高等学校と高大連携協定
- ・青森中央学院大学公開セミナー
- ・名誉教授称号授与
- ・私の1冊
- ・元気トーク
- ・新入生オリエンテーション
- ・新入生抱負
- ・第103回看護師国家試験からのまなび

青森中央短期大学

10

学位記・修了証書授与式

- ・入学式
- ・新入生ガイダンス
- ・
- ・カフェテリア改革
- ・
- ・カワイグレード制度本格的導入へ

附属第一・第二・第三幼稚園  
浦町保育園 中央文化保育園

12

- ・行事アルバム
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本

青森中央文化専門学校  
青森中央経理専門学校

14

- ・卒業証書授与式・祝賀会
- ・入学式・オリエンテーション
- ・青森田中学園感謝祭
- ・未来の自分像
- ・進級者の意気込み
- ・経理発信情報
- ・ファッション通信
- ・おススメ図書
- ・卒業生ピックアップ

新教員紹介

16

学園共通

18

- ・青森中央高等学校との高大連携協定締結
- ・青森市横内町内会との連携協定締結
- ・新施設紹介～学生の声より～
- ・学生プロジェクト支援制度
- ・地域連携センターオープン
- ・開催行事案内

# 特集 平成25年度就職状況



キャリア支援センター長 塩谷 未知

## 平成25年度のキャリア活動を振り返って

新卒者を中心とした企業の採用活動、そして学生の就職活動、その時期やお互いにかかる労力や時間などのコストや教育とのバランスは必ずしも合理的ではありません。各方面からの批判があり対症的な手直しが行われています。しかし、就職活動の環境が劇的に改善されることはなく、多くの問題を抱えたまま現在の状況が続くものと思われます。

求人状況は瞬間的には改善の兆しはあるものの、求人内容と学生の希望とはギャップがあり厳しい雇用環境は当たり前のように続いています。かつては存在した売り手市場という言葉も、聞かれることはなくなっています。

このような雇用情勢の中で、本学園の平成25年度卒業生は身につけた専門的な知識や経験を活かし、果敢に就職活動を行いました。その結果、就職内定率は専門学校94.8%、短大99.6%、そして大学が95%と健闘しました。

この高い就職内定率は学生本人の頑張りには拠るところが大きいことはいまでもありません。さらに本学園のOG・OBの皆さんの活躍、指導教官、キャリア支援センターのスタッフや関係者、そして地域の企業の方や関係者の温かいご支援やご指導の賜物です。深く感謝する次第です。

企業を取り巻く環境は、グローバル化をはじめとして質的に大きく変わっています。その結果、企業の経営状況はこれまでとは違って大きく変動することが多く、少し前のいわゆる「勝ち組」があつという間に「負け組」になることも珍しくありません。

企業業績の影響を大きく受ける雇用環境も大きく変化し、就職活動における過去の成功体験が必ずしも通用しません。

何が起きてもおかしくない世の中ですが、世の中の変化に振り回されてばかりでは、自分を見失ってしまいます。このような時ほど自分の軸足をしっかり持ち、環境変化に適応することが大事になります。

世の中には人が存在し、人との関わり合いのなかで企業活動が行われています。そのため企業が大切にするのが、人とのコミュニケーション力、行動力、そして何があってもへこたれず元に戻る力です。

キャリア支援センターでは、これら就業力につながる就職力を入学時から段階的に強化することを支援しています。学生の皆さん、関係する皆さんと一緒に前向きに就職活動に取り組むことを支援しています。

# 青森中央学院大学の状況

今春の卒業生は平成24年12月1日に就職活動が解禁になりました。県内大学の先陣を切って平成24年12月4日に学内企業セミナーを開催し、本格的な就職活動が始まりました。その後2回の新年を迎えて、平成26年3月の卒業式の後まで就職活動は続きました。もちろん、早めに内定が決まる学生の皆さんもおりますが、半数近くの皆さんは継続的か断続的か別にして1年近く就職活動をしています。

平成25年度の本学部卒業生は粘り強く頑張り就職率は95%に達しました。就職先を見ると地域の生活や企業活動を支える県内の金融機関、多様な企業や団体、そして公務員へと活動の場を広げています。

大学での学びや各種活動による経験を活かし、世の中で働き役立つことで対価を得ることは大切なことです。しっかり働き続けることで、予期せぬ人や仕事との出会いがあり、自分で気づいていない能力の「見える化」が進み、さらに次のチャンスを呼び込み思いがけない成長があるものです。

いつも頭の片隅に就職活動があり、周囲から「何年生？就職決まったの？大変ねえ」と何度か声をかけられるのは結構つらいものと思っています。そのプレッシャーの中での長丁場の就職活動、心が折れることがあるかもしれません。

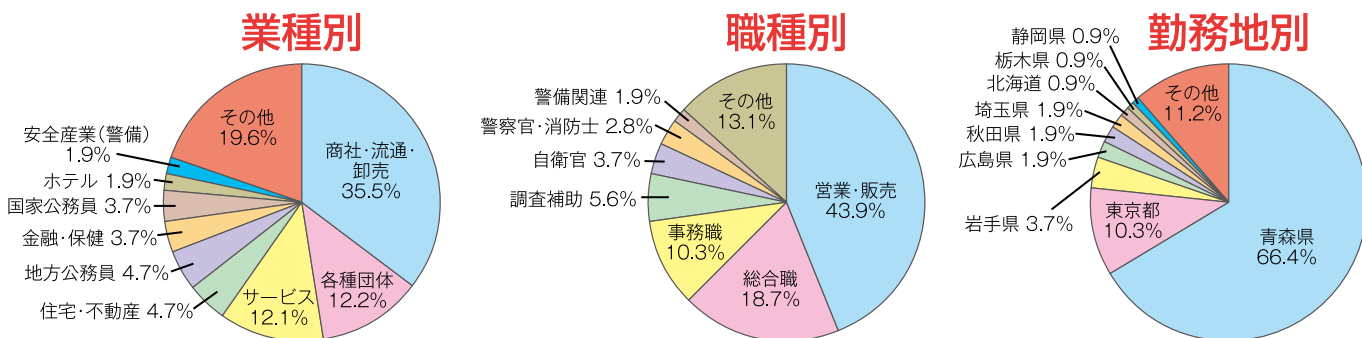
学生の皆さんが多様であるように企業も多様です。企業は多様な人材を求め、時期を含めて多様な採用活動を行っていますので、就職活動を継続して行えば必ずよい出会いがあります。

同じ年代の人が悩みながら同時に就職活動に挑戦することで、同じ年代だけが共有する時代感覚を身につけることができます。この時代感覚は将来必ず役に立ちます。

4年生の皆さん、就職活動というプロセスのなかで多くの人に出会ってください。いい人、そして嫌な人いろいろな人に会うことでたくましくなっていくと思います。

キャリア支援センター・委員会では皆さんと一緒に就職活動に取り組めます。

(キャリア支援委員会委員長 塩谷 未知)



## 就職活動体験記



**宮北 龍馬 さん**  
むつ市役所

内定が12月に決まった私にとって就職活動は、試行錯誤の日々でした。困難が多かったのですが、1年通して学んだことは、努力は大切だということ、分からないことがあれば誰かに相談してみてもヒントをもらう、1人で何とかしようと思わない、自分の考えを客観的に見直してみるなど、今振り返ってみると、社会に出て必要なことばかりであったと実感しています。内定をもらうまで息の抜けないような日々ですが、終わってみると、自分自身が少しは成長できたのではないかなと感じました。



**五戸 佳介 さん**  
東和電材

私は、2月の始め頃から就職活動を開始しました。まずはエントリーシートや、履歴書で書く内容を考えました。ゼミ担当の大泉先生や、キャリアの方々にも相談し、書く内容を少しずつ練っていきました。志望動機と自己PRについて書く内容を1つ決めておけば、少しは楽になると思います。

私は全部で4社の企業を受けたのですが、自分が興味ある企業を受ける前に、他の企業の試験を受けてみるのもよいと思います。筆記試験や面接などの雰囲気を知り、試験はそういうものだと思えることで、経験を積む事ができ、試験に対する心構えができていくと思います。後輩の皆さんにはチャレンジ精神を持って、失敗を恐れずに就職活動を頑張ってください。

# 青森中央短期大学の状況

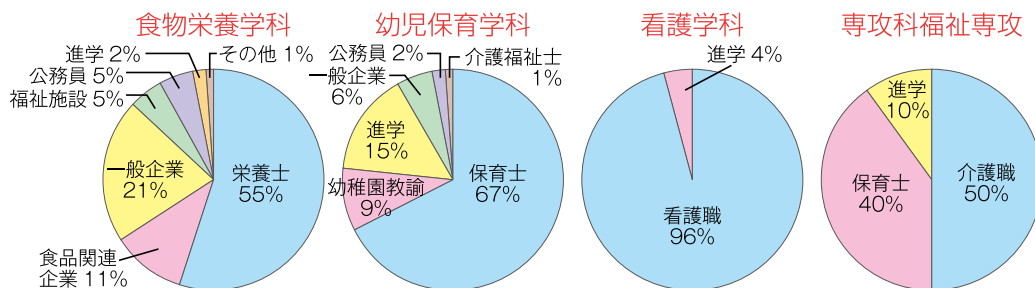
平成25年度（平成26年3月31日現在）は、99.6%という高い就職率を維持できました。これは、学生本人の努力とご家族のご理解とご支援があってこそその結果と考えられ、篤く感謝申し上げます。

近年、首都圏からの求人も年々増加傾向にあります。求人の出足が早いことや待遇面などで首都圏へと目を向ける学生もおりますが、栄養士、保育士、幼稚園教諭、看護師、介護福祉士の専門の資格を活かして地域へ就職する支援を本学では積極的に行っています。（学内企業就職セミナー、県内病院による就職説明会の開催など）

**食物栄養学科**では、栄養士・食品関連職種で66%を超えました。フードスペシャリスト・フードサイエンティスト・栄養教諭などの資格を取得することで、「食」に関する就職の幅をより一層広げていることが伺えます。また、栄養士として働くことで、将来、管理栄養士やケアマネジャーの資格取得を希望する学生も出てきており、大学では卒業後も各種講座を開設し支援してまいります。**幼児保育学科**は進路決定率100%であり、保育士・幼稚園教諭で76%、本学専攻科への進学が15%となりました。「キャリアプランニング」において卒業生講話を実施し、卒業後のイメージを明確にすることができたのも効果的であったでしょう。**専攻科福祉専攻**は、今年も進路決定率100%達成となりました。少子高齢社会が進み、介護職の人材不足が叫ばれる中、介護福祉士の需要は今後も増加すると予想されます。また、ケアマネジャー、社会福祉士に進む将来展望も望めることから、保育士資格を取得後、継続して専攻科で介護福祉士資格を取得し、生涯、福祉系の職場で通用する人材を育成したいと思えます。**看護学科**は今年度も早期に100%を達成し、うち看護職は96%でした。県内の就職は57%、関東圏29%、東北・北海道14%です。本学主催の公務員試験対策講座を受講し、県内の公立病院へ合格を決めた学生も多くありました。今後も引き続き県内病院を対象とした就職説明会を実施し、「地域に貢献する看護師」養成にも力を入れてまいります。

今後も早期からのキャリア支援と地域貢献を、教職員ともに邁進してまいります。

（キャリア支援委員長 中村 純子）



## 就職活動体験記



**八戸 早織 さん**  
日清医療食品

私は栄養士をめざして、5月頃から就職活動を開始しました。県内その他、神奈川県で開催された説明会にも参加し、情報収集を進めました。

筆記試験は、一般常識のテキスト、基礎栄養や公衆衛生などの授業をまとめたノートを活用していたので、特に難しく感じることはありませんでした。反面、面接が重要なポイントだと感じました。将来どんな栄養士になりたいか、自分の気持ちを見つめ直してしっかりとした言葉で人に伝えられるように心がけました。

就職活動中、「本当にこの会社で働いていけるのか」という不安を抱いた時もありましたが、内定も頂き、気持ちにゆとりを持って、活動を最後まで続けることができました。



**小関 まどか さん**  
つるた乳幼児園

私は、小さい頃から保育士になることが夢でした。短大での2年という短い時間で沢山のことを学び、2年後期からは希望していた県内での就職活動に本気で取り組みました。

実家である五所川原市から通える保育園を探すために、学内だけではなくハローワークへも足を運びましたが、なかなか求人にも恵まれず、2月になっても就職が決まらずに焦っていました。その折、学科の先生方のご支援もいただき、念願である保育園への就職試験に臨むチャンスが巡ってきました。

支えてくれた沢山の方達のおかげで夢が叶ったということをお忘れず、今後は子ども達へ毎日笑顔を与えられるよう、精一杯頑張りたいと思います。

# 青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校の状況

平成25年度の就職状況は、専門学校全体として94.8%（3月末現在）でした。

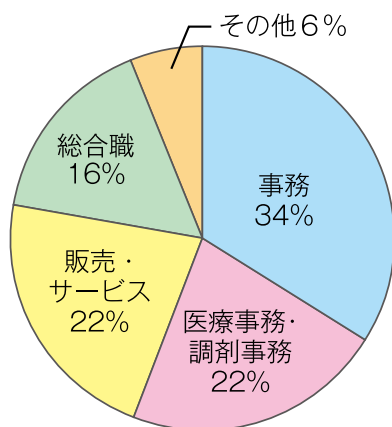
10月末時点での内定率は、平成24年度の28.5%に比べ、平成25年度は44.4%（前年同月比15.9%増）であり、当初の計画通り、「早期の活動」「早期の内定」を達成できた年でした。要因の一つには、早期就職活動の意識涵養や各種プログラムの成果によるところだと思えます。特に卒業生講話については今年度、直近の卒業生と数年前の卒業生の2回開催しましたが、どちらも学生にとっては刺激的であり、就職活動意欲の向上に繋がりました。卒業生講話は今年度も継続して開催予定です。

学校別でみると青森中央経理専門学校では、それぞれのコースに即した専門分野の就職先に多く内定を頂きました。特に前年より在籍数が増えた医療事務コースでは、医療事務や調剤等の専門分野に前年比10%増の内定を頂きました。

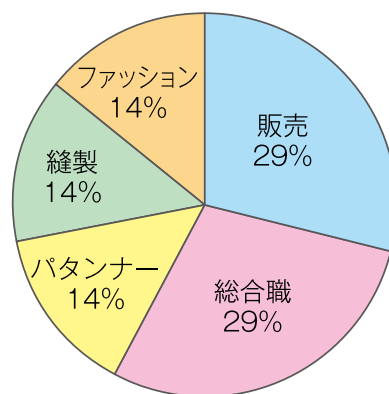
青森中央文化専門学校では、今年度も専門分野にはほぼ全員就職しましたが、約50%の学生が県外就職しました。

今年度は、全員内定+専門分野への就職100%を目標に支援していきたいと考えています。そのためには、対企業・対学生の両面でキャリア支援センターと連携しながら、企業開拓、卒業生企業訪問、卒業生講話、インターンシップ参加、個別面談、授業（キャリアデザイン）等、フォローアップしていくことが肝要だと考えています。  
（専門学校キャリア担当 鈴木 伸吾）

## 青森中央経理専門学校



## 青森中央文化専門学校



## 就職活動体験記



**中畑 幸成 さん**  
世紀東急工業 青森営業所

私は、経理事務コースで2年間学び、取得した日商簿記2級の資格を活かせる、経理事務として内定をいただきました。私は、税務関係か経理関係の仕事を視野に就職活動をしてきました。しかし、いざ就職活動をすると、賃金待遇や福利厚生等も、知らず知らずのうちに選んでしまい、思うように活動できなかった時期もありました。自分の就職活動に不安を感じる中、キャリア支援センターへ相談に伺ったときに見た求人票が一つの運命の分岐になりました。自分の持っている資格を活かし、且つ、成長させてくれる会社であることに魅力を感じたからです。センターで個別面接の対策練習を重ね、真剣に取り組んだことが内定という結果につながったのだと感じています。



**平 妙実 さん**  
三鈴

私は将来、プロのファッションアドバイザーになりたいという夢を叶えるために、青森中央文化専門学校のファッション販売を専攻しました。授業では販売の知識を学ぶだけでなく、実際に店舗実習で1日の仕事の流れを体験しました。

就職活動ではキャリアデザインの授業を通して、キャリア支援センターの方々とクラスアドバイザーの先生に、面接指導や履歴書の書き方など、細部に渡り指導をしていただきました。その結果、あこがれていた「三鈴」から内定を頂き、現在LD primeのファッションアドバイザーとして働いています。今後は更にCSリーダーとして頑張ります。

※CS…Customer Satisfaction. 企業が提供する商品やサービスによって得られる、「顧客の満足」

# 青森中央学院大学

## 学位記授与式

3月17日、青森中央学院大学第13期生108名、同大学院第9期生6名の学位記授与式が3号館（体育館）において行われた。学部生は学士（経営法学）、大学院生は修士（地域マネジメント）の学位を取得した。なお、2名の留学生が1年間の交換留学課程修了を認められた。式では、卒業生ひとりひとりに花田学長から学位記が手渡された。

今年度の卒業生代表のことは学部がベトナムのファム ベト ホアン君、大学院は范一琳さんがそれぞれ務めた。就職状況は昨年度とほぼ同様の95%に達したこともあり、卒業生の顔からは安堵感と将来に向けた気概が感じられた。

式典終了後、場所を青森国際ホテルに移して行われた祝賀会では、在学生による「ねぶた囃子方」や「軽音楽部ライブ」の祝賀演奏が行われた。最後は卒業生代表による4年間の思い出をまとめたスライドショーが上映され、お世話になった恩師や同級生との思い出話に花を咲かせていた。

（小俣 勝治 経営法学部長）



## 入学式

4月4日、青森中央学院大学経営法学部第17期生及び同大学院第11期生、そして、今年度より新設された看護学部第1期生の入学式が挙行された。春の訪れを感じる日に、総勢256人の新入生が、夢と希望に満ち溢れた表情で本学に集った。花田学長からの式辞、理事長からの祝辞を真剣に聞く新入生のまなざしによって張り詰めた空気に、こちらも身が引き締まる思いであった。新入生代表宣誓では、看護学部の藤崎奈々さんから「新たな歴史を刻む1期生としての自覚を胸に、共に助け合い励ましあって、生命を尊重し豊かな人間性を備え、かつ実践力・連携力・自律性のある社会の一員をめざして日々努力します」と力強い言葉が発せられた。多くの学生に本学を選んでいただいたことを感謝すると同時に、学生の夢の実現をサポートできるよう、教育の充実により一層努力しなければならないであろう。



## 中国・東北師範大学人文学院と協定締結

1月23日、中国の吉林省長春市にある東北師範大学人文学院と青森中央学院大学の両大学間で、学生交流、教職員交流、学術情報及び出版の交換等々について、協定を締結しました。

東北師範大学人文学院は1988年に創立され、2004年に中国教育部に認可された10学部42学科、学生数約1万人の私立大学です。今後、協定内容に基づき具体的な交流を促進させ、国際的に活躍できる人材を育成していく予定です。



## 海外留学支援制度スタート

国内並びに県内において、グローバルな舞台で活躍できる人物の育成が求められる中、学内の体制を整備し学生の海外留学を促進する目的で、本学園の海外留学プログラムに参加し、かつ条件を満たす学生を対象にした学園独自の支援制度がスタートしました。

### ☆海外留学奨励費支給☆

短期留学50,000円 中期留学70,000円  
長期留学100,000円

### ☆語学準備講座開催☆

青森中央学院大学の外国人留学生が講師となって、留学先の言語（英語、タイ語、ベトナム語、中国語、韓国語）、習慣、文化、大学等の情報等を教えます。

### ☆英語力向上講座開催☆

TOEIC対策講座や英会話講座を予定しています。

なお、これとは別に日本学生支援機構の留学生交流支援制度（短期派遣）による奨学金の支給もあります。

## 『点描～変わりゆく現代社会』出版

青森中央学院大学（編）『点描～変わりゆく現代社会』が、「ぎょうせい」より出版された。本書は、平成15年から地域に開かれた公開講座として開講されてきた「現代社会論」の平成25年度の講座内容を中心として、講座担当者が新たな視点を加えて加筆修正したものである。

当講座の講義内容をこうした形で書籍にする試みは、平成21年度の『現代社会におけるグローバル視点』に続き、第2回目となる。今回のテーマは、「変わりゆく現代社会」とし、様々な分野における「変化の兆し」に焦点が当てられている。

本書は財団法人青森学術文化振興財団の助成金を受けて出版された。読者諸氏には、ぜひ、お目通し頂きたい。



**点描～変わりゆく現代社会**  
 青森中央学院大学 [編]  
 A5判 226頁  
 本体価格 1,825円(税別)  
 (2014/03/31 発行)  
 ISBN : 978-4-324-80069-0  
 発行所：ぎょうせい

## 学生カフェ「colorful」を運営して

何もかも前例が無く、手探りでのカフェでした。メニューの調理は衛生管理に気をつけなくてはいけないこと、またスタッフ全員が作れる様にマニュアルの準備が要ること、その他にも店内装飾、金銭管理、情報発信の形など、飲食店を営むことは簡単ではないことを痛感しました。

さらに、お客様からお金をいただいて食事、サービスを提供していることに対し、私達に責任感が足りず、どこかで妥協していました。おまごとしてしているわけではありません。お客様が汗水かいて稼いだお金を私達はいただいています。再びカフェを継続するなら、これらの点を反省し、改善していく必要があります。

力不足の私達ですが、お客様から美味しい、学生と話すのは楽しい、という声を聞くと、カフェを通じて地域貢献ができたのでは、と感じます。また、新聞、テレビを見て訪れてくれたお客様もいらっしゃいました。情報発信を積極的に行っていけば、もっと賑やかに運営できることでしょう。

経営することの難しさと社会勉強を学べる、とても良い経験でした。

(学生カフェ「colorful」広報担当 瓜田 真樹子)

## 平成25年度青森市文化賞・スポーツ賞受賞

2月21日、平成25年度青森市文化賞・スポーツ賞の授賞式が行われ、平成25年に全国大会、東北地区の大会で上位に入賞した選手、指導者に青森市長から表彰状と盾が授与された。

今回は、団体としてカーリング部、ボウリング部、ボクシング部の3団体が、さらに個人ではボウリング部の浅野真唯選手、ボクシング部の浅沼悠太郎選手、佐々木将太郎選手、三上大城選手、水野弘樹選手の5選手が、「青森市スポーツ奨励賞」を受賞したほか、本学カーリング部を創設から4年間指導していただいた、加藤信行前コーチも指導者として、「青森市スポーツ指導者賞」を受賞した。



## 県内高等学校との高大連携協定締結

2月6日、青森中央学院大学・青森中央短期大学と青森県立中央高等学校との間で、これまでに築いてきた相互の信頼関係に基づき、双方の教育機能についての交流・連携をさらに深めるための連携協定を締結した。教育交流・連携の活動内容は、特別聴講生の受け入れ、各種公開講座への聴講生の受け入れ、出張講義、教育についての情報交換及び交流等である。



また3月19日には、青森県立青森西高等学校と青森中央学院大学との間で「高大連携プログラムに係る協定書」が締結された。内容は、高度な普通教育や専門教育の講演、来学講座・出前講座等の連携プログラムの策定や調査研究・研修等の連携・交流である。今後、内容の具体化・実践化を図っていきたい。



## 青森中央学院大学公開セミナー

### 「国内外の金融経済情勢と青森県経済の現状」

講師：日本銀行青森支店長 宮下俊郎氏

3月26日、新装なった7号館1階フリースペースに日本銀行青森支店長・宮下俊郎氏を迎え、青森中央学院大学公開セミナーを開催した。

最初に、日本銀行誕生の経緯や日本銀行青森支店の歴史を交えて、「物価安定と日本銀行の役割」について分かりやすい説明があった。その後、「国内外の金融経済情勢と青森県経済の現状」をメインテーマに、最新データを基に日本経済の現状と青森県経済について明解な分析がなされた。分析によれば、日本経済には久方ぶりに明るさがうかがわれており、青森県経済にもその好影響は現れている、とのことである。

会場は高校生、ビジネスマン、シニア層、本学学生、教職員など約90名が参加、熱心に聞き入っており、大変有意義なセミナーとなった。



## 酒井甫先生・木村良一先生名誉教授称号授与

平成10年4月の青森中央学院大学開学時より、本学の教育・学術の発展にご尽力いただいた酒井甫経営法学部教授と同じく経営法学部の木村良一教授に対し、平成26年4月1日付けで、青森中央学院大学名誉教授の称号が授与された。

酒井甫・木村良一両教授は、青森中央学院大学の設置準備時より、本学の開学に向けてご尽力された。また開学後においては、酒井甫教授は副学長、木村良一教授は初代学務委員長として大学の運営と学生指導にあたられた。その功績を称え、このたびの称号の授与となった。



## 私の1冊

経営法学部 寺井里沙先生

### 『アンジェラの灰』

フランク・マコート著／土屋政雄訳（新潮社、1998）

私のおすすめの一冊は、「アンジェラの灰」（フランク・マコート著・土屋政雄訳）です。著者のアイルランドでの幼少、少年時代が描かれています。主人公の環境は恵まれているとはいえませんが、子供ならではのユニークで純粋な視点で描かれているため悲壮感はありません。アイルランドの神話や生活文化などが随所に登場するため、むしろ日常の延長線上にあるファンタジーのように感じます。試験勉強のためにしか本を読まず、大学の先生からゲートをすすめられても、結局読まなかった私ですが、この本だけは何度も読み返しました。この本から有益な情報や優れた教訓が得られるわけではありませんが、著者の世界観とそれを美しく反映した土屋政雄氏の翻訳が私にとっても合っていたのだと思います。人によって本を選ぶ基準は様々ですが、私は土屋政雄氏が翻訳していればつつい手にとってしまいます。皆さんもお気に入りの翻訳者を見つけてみてはいかがでしょうか？

## 元気トーク

今日私たちは、震災復興をはじめ少子高齢化、障害者、地球環境、貧困、ホームレス、青少年教育、若者の学習意欲・労働意欲の低下、コミュニティ再開発、途上国支援など、解決しなければならないさまざまな問題に直面している。その中で、いろいろな分野でこれらの問題に立ち向かい、元気に活躍している方々がいる。ギア研究室では、月1回、元気で前向きな方々を囲み、様々なノウハウ、経験や教訓を学び合うトークサロン「元気トーク」を企画・開催している。このトークサロンで、私達の課題に挑むための元気をもらい、明日の元気につながることを目指している。

これまで、東日本大震災復興に取り組んでいる被災者、グローバル教育や発展途上国支援の分野で元気に活動している方々のトークを開催してきたが、参加者から「元気トークに参加して、元気になった」「たくさんの元気をもらった」などの感想が寄せられた。あらためて元気トークの存在意義を感じ、これからも引き続き元気を人々に届けていくことを目指したい。

（経営法学部 グェン・チ・ギア講師）



## 新入生オリエンテーション

看護学部の新入生オリエンテーションは、学部長からの「大学生として自ら積極的に学んで欲しい」という新入生へのメッセージから始まった。昼食を兼ねた教員との交流会では、緊張しながらも会話が弾み、新入生に笑顔も見られた。午後は、看護学部の教育目標、カリキュラム、実習、国家試験対策、就職支援についての説明があり、真剣な表情でメモを取りながら聞く様子も伺えた。厳しい4年間になることを実感し、緊張した雰囲気での大学生生活のスタートとなった。



## 新入生抱負

看護学部1年 奈良 彩佳



ガイダンスでは、カリキュラムなどについての詳しい説明を受け、今後のビジョンがはっきりとしました。四年後の国家試験に合格するのが目標ですが、まずは一年後にこれから学んでいくものがしっかりと土台となり身につけているように取り組んでいきます。これから、看護師になるための勉強ができることが楽しみな反面、実習や勉強、人の命に関わる仕事だということから不安もあります。また、辛いことや苦労は当然あると思いますが、自分が成長できるチャンスだと思って頑張りたいです。私は秋田県出身なので、青森県内の学生が多く、馴染めるか心配でしたが今はいろいろな人と会話をするようになり少しずつ慣れてきました。自分と異なる考え方、価値観の人との関わりから得られるものはとても大きいです。家族や周りのサポートのおかげで今、看護を学べる環境にいるということを忘れずに過ごしていきたいです。

## 進路決定と受験対策

看護学部1年 岡本 卓也



私が看護師をめざしたのは、小学五年生のときに虫垂炎で入院したのがきっかけです。腹部の痛みや入院生活のことで不安になっていたとき、担当の看護師に手を握ってもらい「大丈夫」と言われ安心できました。私も患者の不安を少しでもなくし、治療に専念できる環境を作ることができる看護師になりたいと思いました。青森中央学院大学看護学部を志望した理由は、4年制になり認知症高齢者ケア、スキンケア論、緩和ケアなど、看護に必要な基礎知識だけでなく、より高度な知識まで学べる点が魅力的だったからです。

受験の面接対策では自分の思っていることを簡潔にまとめて伝えるようにしました。ほかにも、時事的な医療ニュースを見て知識を広げること、ニュースについて自分の意見を持つこと、なぜそう思ったのか考えることを意識するよう努力しました。ニュースを見てそれについて考えることは小論文を書くうえでもプラスになりました。

## 第103回看護師国家試験からのまなび

第103回看護師国家試験は、前日の関東・東北地方における例外的な降雪により、800余名が交通手段を遮断されるなど、約4週間後の追試を余儀なくされた。受験当日に積み重ねた成果を発揮するために、万全な備えが大切であることを改めて痛感させられた。本・追試験合わせての全国の合格率は89.6%（うち新卒95.1%）であり、本学6期生においては96.9%の高い合格率を得ることができた。また、各業者よる第103回看護師国家試験問題の分析結果に共通していたのは状況設定問題がより臨床に即して、かつ各専門分野を超えて統合問題として出題される傾向にあることである。このことから、各看護領域の臨床実習における看護過程を丁寧に展開することや、知識を統合して解答することが求められてきているのがわかる。本学においては、種々の国家試験対策講座を実施しているが、上記のような傾向を考えると、知識の詰め込みだけでは不足である。今後の対策として、1年次からの各看護学実習において実践力・応用力を身につけることが重要である。

（国家試験対策委員長 玉熊 和子）

# 青森中央短期大学

## 学位記・修了証書授与式

天候に恵まれた3月15日、青森中央短期大学学位記・修了証書授与式が挙行された。食物栄養学科1年の馬内紫織さんが歓送のことば、食物栄養学科2年の葛西美里さんが卒業のことばを述べ、食物栄養学科63名、幼児保育学科96名、看護学科96名、専攻科福祉専攻10名の計265名が学び舎を巣立って行った。

式の後に催された卒業祝賀会では、実行委員が中心となり、各学科思い思いの趣向を凝らした余興を企画、実施し大いに盛り上がった。卒業生達は、学生時代を共に過ごした友人達との最後のひとときを楽しんでいたようだった。

卒業とはいえ、まだまだ社会人のスタートラインに立ったばかり。学生時代以上に勉強することが求められるかと思うが、多くの経験を積み、しかし初心を忘れずに、大きく飛躍することを期待する。



## 入学式

4月4日、入学式が挙行され、まだ肌寒く雨が小降りの中、新入生達の明るい希望に満ちた顔が体育館に見られました。青森中央短期大学では食物栄養学科72名、幼児保育学科88名、専攻科福祉専攻14名の新入生を迎えました。入学許可では新入生一人ひとりの初々しくも元気な返事が響き渡りました。久保薫学長式辞、石田憲久理事長祝辞に続き、在学生代表の外崎優希さんによる歓迎のことば、新入生代表の越後谷奈々さんによる新入生宣誓では、二人の堂々とした姿に頼もしさを感じました。

翌週から始まった新入生ガイダンスでは本学の建学の精神や教育理念が久保学長から伝えられ、専門職という夢をめざそうと意気込み新たにすることが新入生の様子から伝わってきました。これから始まる短期大学での生活の中でどのように成長していくか、今後がとても楽しみです。



## 新入生ガイダンス

**全体ガイダンス**で行われた学長講話では、「自分の可能性に限界を作らずに!」「どこで学んだかではなく何を学んだか」などの言葉が心に響いたようである。「今までは苦手だと思っものから逃げてしまっていたが、苦手だからこそ努力してできることを増やしていきたい」、「失敗を恐れずに挑戦したい、将来に向かって精一杯やろうと思う」などの感想が寄せられた。



**食物栄養学科**では、短期大学での学修に必要な知識や考え方を学ぶ「食物基礎講座」が開講された。新入生は慣れない90分授業に苦戦しつつも、短大の授業や学ぶ姿勢、履修方法、教員とのコミュニケーションの取り方などの講義を受けた。また和やかな雰囲気の中、在学生による履修・生活相談会も開催され交流を深めていた。

新入生は栄養士という専門職の魅力を再認識し、これから始まる短大生活に意欲を新たにしていた。



**幼児保育学科**では初めに、学生生活や履修方法についての説明を受けた。緊張しつつも真剣な眼差しで聞き入る姿に、大学生として、そして保育のスペシャリストをめざす者としての自覚と情熱が垣間見えた。ガイダンスの締めくくりは2年生との交流会で、「レクリエーション論」ご担当の塩谷先生を講師に迎え、自己紹介ゲーム、グループ作りゲーム、クイズ大会などが行なわれた。最初は戸惑いを見せていた新入生も、2年生の笑顔と優しく暖かいコミュニケーションのおかげで次第に打ち解けていった。最後のフォークダンスでは、長年の仲間のような盛り上がりを見せ、幼児保育学科学生として最高の第一歩を踏み出した。

## 食育リーダー育成プログラム

平成25年度から、食育を行うための基礎的な知識・技術の修得を目的とした食育リーダー育成プログラムを実施している。プログラムの対象者は、食育に関心があり食育活動を行いたいと考えている本学園のすべての学生である。平成25年度は子どもに食育指導をする際のポイントや教材の種類、食育指導計画の立て方、食育活動のデモンストレーション等を実施した。所定のプログラムを終えた学生には修了証を発行し、15名が修了した。

今年度は昨年度と同様のプログラムを「基礎編」とし、平成26年5月から11月に実施する。また、今年度は5月から平成27年1月までの期間で「実践編」のプログラムも行う。実践編は学生自身が食育活動の企画や計画の作成、実際の活動を行い、最終的には実践報告会を行う予定である。学生が実現したい食育の企画を実現していけるように助言し、食育活動の輪を広げていきたいと考えている。



## ようこそ!!先輩

専攻科福祉専攻では4月8日、在宅介護支援センター鶴ヶ丘苑にて介護支援専門員（ケアマネジャー）として勤務されている阿部一樹さん（専攻科福祉専攻16期生）をお招きし、介護福祉士からのキャリアアップについてご講話いただいた。

介護福祉士はその人の生活に寄り添い、生活上の課題を解決していくために思考し、その解決過程を行うことが専門職として求められているが、介護支援専門員は介護の面ばかりではなく、多くの社会資源を活用してサービス計画書（ケアプラン）を作成する役目を担っている。そのため、5年の実務経験と試験が課せられている。近年の合格率は10%台で推移しておりその役割の重要性が理解できる。

阿部さんは今後、2年の介護支援専門員の実務経験を活かし、社会福祉士をめざすことを明かしてくれた。現状に満足せず、更に上をめざそうとする姿は学生達の目に眩しく映り、学んでいく事の大切さを教えてくれたことであろう。



## カフェテリア改革

カフェテリア改革プロジェクトが発足されてからおよそ1年半が経過しましたが、皆さん、カフェテリアはご利用いただけていますでしょうか？少しずつ変化を遂げてきたカフェテリアですが、特にオススメしたいのが曜日替わりで季節ごとに新メニューを提供している「ヘルシーランチ」です。皆さんは一日に必要な摂取カロリーがどのくらいご存知ですか？一日の大半を座って過ごす人であれば、10代～20代の男性で約2300kcal、女性で約1800kcalとされています。（運動をしている人は運動量により異なります。）

ですが、毎日自分で管理するのはなかなか大変…そこで、少しでも皆さんの健康管理の助けになればと企画されたのがこの「ヘルシーランチ」です。今後はカロリー以外に塩分・野菜摂取量（g）の表示等、食に関する情報を公開しながらメニューを提供していきたいと考えていますので、毎日の健康管理に是非お役立て下さい。



## カワイグレード制度本格的導入へ

平成26年4月より、ピアノの習熟度アップを目的に、カワイグレードテストを導入しました。基礎課程から専門課程まで、個人をレベル毎に目標点を設定することで、授業の成果や実力を客観的に捉えることができます。これまでの保育現場での実践を中心に考えられた授業内容に「保育者としての音楽力」を育成します。また、更にハイレベルの「指導グレード」を目指すことによって、音楽教室の指導者としての道も広がります。

昨年は希望者のみの受験で受験者全員合格、内1名は指導グレード合格という結果となり、今年度の本格的導入に弾みをつけました。課題曲を通して得るものは、ピアノの表現力や演奏技術だけでなく、音楽を感じ、考える基礎力であり、それこそが現場で最も必要とされる力なのです。

今後は卒業生の皆さんにも、ステップアップや生涯学習としての学びの機会を提供できるように体制を整える予定です。

（担当：幼児保育学科 前田美樹・木村貴子）

# 附属第一・第二・第三幼稚園 / 中央文化・浦町保育園

## 教育方針

—健康で明るく心豊かな子ども—

- 友達と仲良く遊ぶ。
- よく見、よく聞き、よく考える。
- 思ったことははっきり話す。
- 自分のことは自分でやる。

### 認定こども園附属第一幼稚園



〈入園式〉新園児のみなさん、ご入園おめでとうございます。



〈始業式〉今年度も玄関から元気なご挨拶が響いています。



〈リズム・体育遊び保育〉ケンケンパやバランスゲームなどでたくさん運動しているよ。

### 認定こども園附属第二幼稚園



〈入園〉土曜日でしたので、ご両親の出席が多く、園児達を愛らしくみつめていました。



〈入園〉男の子・女の子ともになかよく、語らいながら、小さい作品づくりに励んでいる姿です。



〈お散歩〉年長さんは春をみつけにお散歩にでかけました。神社にお参りしたあと、まつぼっくりを収穫してきました。

### 認定こども園附属第三幼稚園



〈入園式〉新しいおともだちに体操を教える年長・はくちょう組です。



〈第一学期始業式〉全員そろっての一学期始業式。楽しい事がいっぱい待ってますよ。



〈給食の様子〉いただきます。新しいおともだちもきちんとごあいさつできました。

### 中央文化保育園



〈入園式〉新しいお友達のお祝いだんば組が「よさこい」を披露しました。



〈戸外遊び〉今年も満開の桜。いよいよ春本番です。毎日元気一杯遊びましょう。

### 浦町保育園



〈入園式〉第6回入園式が4月12日に行われました。23名の新入園児を迎え、「アンパンマンの手遊び」やうたを一箱にうたって、笑顔いっぱいの楽しい一日でした。

## 先生達活躍しています 第12回

### 年長組のみんなと共に初体験!!!

認定こども園附属第二幼稚園



#### 川原田 愛先生

今年度、年長・りんご組を担当することになりました。10年ほど前に何度か卒園児を送り出したことがあります。附属幼稚園では初めてです。あの頃とは、時代も子ども達の様子も随分変わっています。また、附属幼稚園には特有の楽しい行事がたくさんあります。これから、りんご組のみんなが初めて体験する出来事に、私自身も初心に戻って、共に考えたり、悩んだり、喜んだり、感動したり…、子ども達と一緒に楽しみながら取り組んでいきたいと思っています。

りんご組の子ども達は、「一番大きいお兄さん・お姉さん!!」と、目を輝かせて毎日を張り切って過ごしています。「たくさんのお話を吸収したい!!」と意欲満々の子ども達のパワーに負けないように、瞳の輝きがずっと続くように、楽しい遊びを展開し、充実した日々を共に過ごしていきたいと思っています!!

### 成長する姿を見て

中央文化保育園



#### 山上 由美子先生

昨年、今年と2年連続で3歳児の担任となりました。3歳児の魅力は、一日と同じ姿を見せないところです。ある日、ジャンパーのチャックが一人で閉められない子が、次の日には自分ひとりでチャレンジし、またその次の日には、「できたー!」と、とびっきりの笑顔で知らせてくれたり、給食時、箸を使って食べ始め、最初は難しく諦める姿が見られていた子が、応援すると「がんばる!」と最後まで箸で食べようとするなど、毎日成長していきます。今までできなかったことを一人でやろうと頑張り、出来た時の子どもたちの輝く笑顔を見ることが私の喜びです。

これからも、子どもたちが時に立ち止まってしまうことがあっても、そばへ寄り添い、安心して様々なことに挑戦し、出来た喜びを感じ成長していけるよう関わっていきたく思います。

### 保育現場復帰にあたって

認定こども園附属第三幼稚園第三ばんびくらぶ



#### 齋藤 智子先生

昨年9月から第三ばんびくらぶに勤務しております。以前も幼稚園や保育園に勤務していましたが、しばらくブランクがあったので、ここに勤務した時はとても不安でした。しかし、職場の雰囲気や素直な子ども達と触れ合い、今では充実した日々を送っています。

3人の子どもがいる母親として、自分の子育て体験をも活かしながら保育にあたっていますので、0歳児が寝返りやお座りができたり、また、歩けるようになったりした場面に遭遇すると、まるで我が子の成長のように嬉しくなります。

人間の脳は3歳までで80%完成されると言われています。だからこそ、共に触れ合う時間を大切に、私も一生懸命に頑張ります。

## 読み聞かせたい一冊の絵本

認定こども園附属第一幼稚園 佐藤 恵子 先生

### 『おひさまとかくれんぼ』

たちもとみちこ さく・え (教育画劇, 2013.8)

こぶたちゃんがおさんぽをしているとなかよしのかまくんたちが「いっしょにかくれんぼしよう。」とお話し、そこへおひさまも「わたしも入れてくださいな。」と声をかけました。

おひさまは、「わたしがかくれますからみんなでも10かぞえてね。」とお話します。「もういいかい」「まあだだよ」空をみあげるとおひさまはどこにもいません。どこにかくれたのでしょうか。

しかけ絵本になっていて、まるい穴の中にはかめさんやひまわりといろんなものがかくれんぼしています。動物たちとおさんぽをしながら最後には、きれいな虹が表れ、おひさまもにっこり笑っています。「おひさまみつけた」色彩がとてもきれいで子どもたちも大人も惹きつけられる絵本です。



# 青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

## 卒業証書授与式・祝賀会

新芽を静かに成長させ、雪解けの土から春の息吹を感じる3月21日の春分の日、青森中央経理専門学校ならびに青森中央文化専門学校の卒業証書授与式が保護者や在学生が見守る中、厳粛に執り行なわれた。

卒業生代表として、青森中央経理専門学校の鎌田達也君が、家族と仲間を支えられた2年間だったと感謝の気持ちを述べた。在校生代表の青森中央文化専門学校の阿保 俊良さんは、先輩達が残した伝統を守りますと誓いを述べた。同日午後に行われた祝賀会では、仲間と先生に向けたビデオレターの上映や、2年間を振り返った手紙を読む場面もあり、会場は思い出に満ちていた。

今後、一人一人が歩いて行く道は違っても、2年間共に過ごした時間の貴さは同じく感じるだろう。



## 入学式・オリエンテーション

4月5日、青森中央経理専門学校ならびに青森中央文化専門学校の入学式が執り行なわれた。新入生を代表し、青森中央経理専門学校へ入学した船橋綾音さんが、本校の建学の精神「愛あれ、知恵あれ、真実あれ」を胸に、希望と期待に満ちた誓いを述べた。

7日・8日はオリエンテーションを実施し、互いに交流を深めながらケーススタディでグループワークを楽しんだ他、講師をお招きし、「夢を実現させるために～専門学校生としての時間の使い方～」についてご講話いただいた。学生は新生活のスタートを新たな決意を抱き、真っ直ぐな瞳で講話に耳を傾けた。



## 青森田中学園感謝祭

2月7日、針供養と青森田中学園感謝祭が執り行なわれた。日々、針と身近に接し、ファッションを学んでいる青森中央文化専門学校のほか、青森中央経理専門学校、青森中央学院大学大学院、青森中央学院大学、青森中央短期大学・附属幼稚園、中央文化保育園、特別養護老人ホーム三思園等、各施設から多くの方々に参加した。

第一部は、宮司様による供養の儀、玉串奉奠の儀などの神事を執り行われ、詔を捧げた。続いて、青森中央文化専門学校生が、一年間に使用した折れた針・錆びた針に感謝を込めて柔らかい豆腐に刺し、労い休め、技術の上達を願った。

第二部は、青森中央学院大学、青森中央短期大学、青森中央経理専門学校の3施設の学生が、友人、家族、物に対して感謝の気持ちを表すスピーチを述べた。また附属幼稚園の園児達が日頃遊んでいるおもちゃへの感謝を、歌に込めて贈った。



## 未来の自分像

青森中央経理専門学校1年 **太田 麻由**

私は将来、公務員になりたいという目標を持って、青森中央経理専門学校に入学しました。今の自分には、社会に出て生きていく為の武器が何もありません。社会に出た際、自信を持って自分をアピールできるような確かな実力を身に付けたいという目標を成し遂げる為に、この二年間で小さな目標を一つずつ掲げ、やる気を継続したまま卒業できるように頑張っていきます。



## 進級者の意気込み

青森中央文化専門学校2年 **横嶋 宏美**

私は将来、ファッションアドバイザーになりたいという夢を叶える為に、青森中央文化専門学校へ入学しました。入学後は店舗実習を通して実際にお客様と接し、たくさんの方と関わることで改めてお客様の大切さと、自分の未熟さを痛感しました。まだまだ覚えることが沢山ありますが、卒業までにはファッション販売の2級を取得し、自信を持ってるように頑張ります。



## 経理発信情報 Vol.11 ～写真サークルより春フェスレポート～

5月4日、5日にわたって開催された「第9回青森春フェスティバル」に、青森中央文化専門学校は、今年もフェスティバルを盛り上げるためにファッションショーで参加しました。今回、その様子を写真サークルで撮影してきました。

ファッションショーは5日、中三青森本店前の通称「昭和通り」での開催となりました。ショーでは、「THEATRE,yours=」をテーマに、色々な映画からインスピレーションを受けデザイン・制作した衣装を身にまとい、青森の街を盛り上げました。私もモデルスタッフとして参加し、5月1日にはフィッティング、ウォーキング練習を行い、本番当日も楽しく参加できました。

(学生記者：写真サークル代表 野澤 果楠)



(撮影：写真サークル 滝沢 優菜)

## おすすめ図書 vol.10

青森中央経理専門学校 塚本 大広 先生  
『20代のうちにこそ始めたいお金のこと』  
中野晴啓著 (すばる舎,2012)

著者とは、経理事務コースが毎年お手伝いをさせていただいている「FPフォーラム」(主催：日本FP協会青森支部)において出会い、誠に勝手ながら親しくさせていただいている。

今回ご紹介するこの本は、20代において最大の武器である「時間」に着目している。「お金」と「時間」の2つのキーワードを結びつけて内容を展開しているが、その中で私が注目したのが、「たくさんのお金の経験を積む」という部分である。お金をもらったら皆さんはどうしますか?多くの方は、生活費などの一定額を確保すると残りは「貯金」と答えると思うが、それを「自分のために使う=自己投資」に使うということを述べている。美味しいものを食べる、友達と遊びに行く、資格取得のために書籍を買うなど、それにより満足感や人とのつながりを広げていくその対価としてお金を使い、このような経験を時間がある20代から始めることが大事だと述べている。この本を読んで、自分のお金の使い方をちょっと考えてみませんか。

## ファッション通信 vol.10

### ～豪華な装飾をまとう～

ドラマティックムードの今季は、クラシカルに豪華な装飾をまとい、女性らしいラインを強調したシックなスタイルに挑戦!上質な素材をまといつつ、遊び心や女優のような雰囲気を感じさせるVictorian。流行カラーのホワイトを取り入れたコーデに、トップスと足先にアクセントカラーを入れてまとまりを出すのがオススメ!パールのネックレスで上品に、猫型バックで个性的に、アクセサリーでシーズンレスのトレンドも盛り上げて。ひと癖あるガーリーテイストを取り入れ、ウエストを強調したフィット&フレアなシルエットにチャレンジしてみましょう。



(記事・デザイン画：文化編集部サークル)

## 卒業生ピックアップ No.23

青森中央文化専門学校 平成24年度卒業  
GUドリームタウンAli店 勤務 満江 まみさん

昨年準社員として入社し、あっという間に1年が経ちました。入社した「GUドリームタウンAli店」は、オープニングに向け準備を進めていた時期だったため、初めは何をするにも手探りで、スタッフみんなからお店を作り上げていきました。挑戦した昇格試験にも合格し、入社時より責任も増してきました。同時に、業務量も増えたため大変ですが、お客様のため、店舗のために日々頑張っています。

学生時代に学んだ知識は仕事をする上で本当に役立っています。しかし、もっと勉強しておけばよかったと後悔することもあります。学生のうちに様々なことに挑戦して教養を増やし、在校生のみなさんも素敵な社会人になって下さい。



# 新教職員紹介

- |   |       |
|---|-------|
| ① | 職位・氏名 |
| ② | 出身    |
| ③ | 担当    |
| ④ | 抱負    |

## 青森中央学院大学

### 経営法学部



- ①専任講師 石橋 嘉一（いしばし よしかず）
- ②千葉県
- ③対人コミュニケーション（看護学部・経営法学部）、英語（経営法学部）
- ④コミュニケーション学からより良い人間関係を構築できる人材を育成していきます。よろしくお願いいたします。



- ①専任講師 太田 航平（おおた こうへい）
- ②茨城県
- ③憲法、行政法
- ④未熟者で何かとご迷惑をおかけするかと思いますが、精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

### 看護学部



- ①学部長 一戸 とも子（いちのへ ともこ）
- ②青森県
- ③基礎看護学
- ④学生達が誇りをもって勉学し社会に巣立つことができるよう、看護学部の充実発展にできる限りの尽力をして参ります。



- ①教授 山田 皓子（やまだ こうこ）
- ②宮城県
- ③老年看護学
- ④看護学はまだまだ若い学問領域です。主体的に学び看護学を追究し続けていく人を育成したい。



- ①教授 山本 春江（やまもと はるえ）
- ②青森県
- ③地域・在宅看護学
- ④何事にも古いコートは捨てて（という唄知っている古い私ですが）新しい気持ちで臨みたいと思っています。どうかよろしくお願いいたします。



- ①准教授 西野 加代子（にしの かよこ）
- ②青森県
- ③母性看護学
- ③助産学・母性看護学の教育経験を素地に再スタートです。学生が人に興味を持ち、出会いを楽しめるように支援したい。



- ①助手 太田 尚子（おおた なおこ）
- ②青森県
- ③看護学実習 他
- ④昨年5月から初めての教員生活ですが、自分自身の学びを深め、学生のサポートができるよう頑張ります。



- ①助手 笹竹 ひかる（ささたけ ひかる）
- ②青森県
- ③看護学実習 他
- ④教育現場において新参者ではございますが、学生の見本となり良き相談相手となれるよう精進して参ります。

## 青森中央短期大学看護学科



- ①専任講師 菊池 美智子（きくち みちこ）
- ②青森県
- ③地域・在宅看護学
- ④看護職を目指した時の気持ちを思い出しながら、新たなスタートを切りました。共に学んでいきたいです。



## 青森中央短期大学

### 食物栄養学科



- ①助教 下山 佳那子（しもやま かなこ）
- ②千葉県
- ③司書科目
- ④図書館司書に限らず、情報はすべての人が扱います。栄養士、看護師、保育士などをめざす皆さまにも役立つ授業を心がけてまいります。

### 幼児保育学科



- ①副手 工藤 朗詠（くどう あきえ）
- ②青森県
- ③実習関係
- ④学生の皆さんが充実した学生生活を送れるよう、サポートしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします！



## 幼稚園・保育園

## 認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園



- ①野澤 美咲 (のざわ みさき)
- ②青森県
- ③5歳児 きく組
- ④この春、幼い頃から憧れていた幼稚園教諭となりました。期待と不安でいっぱいですが、頑張ります。



- ①川村 せれな (かわむら せれな)
- ②青森県
- ③第一ばんびくらぶ
- ④社会人になって1年目でわからないことだらけですが、自分で考え、試行錯誤しながら保育士として成長していきたいと思っています。



- ①山田 美紀子 (やまだ みきこ)
- ②青森県
- ③4歳児 たんぽぽ組
- ④子どもたちの“元気のパワー”をたくさんもらい、楽しく充実した保育を心掛けていきたいと思っています。よろしくお願いします。



- ①木村 正知 (きむら まさとも)
- ②青森県
- ③園児送迎
- ④今年度附属第一幼稚園の園児送迎に携わることになりました木村です。安全運転をモットーに頑張ります。

## 認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園



- ①古川 莉子 (こがわり こ)
- ②青森県
- ③3歳児さくらんぼ組
- ④附属第二幼稚園で年少を担当することになりました。新人として一日でも早く仕事を覚え、毎日子ども達と楽しく充実した日々を送っていききたいです。



- ①伊藤 香奈子 (いとう かなこ)
- ②青森県
- ③年中 つばめ組
- ④毎日、子ども達とたくさん触れ合い、キラキラとした素敵な笑顔を引き出していけるような活動を心がけていきたいです。

## 中央文化保育園



- ①藤本 幸智 (ふじもと さち)
- ②秋田県
- ③2歳児こりす組
- ④分からないこともたくさんありますが、自分の特技や良い所を活かして、元気よく楽しい保育士になれるようにがんばります。



- ①張山 郁美 (はりやま いくみ)
- ②青森県
- ③0、1歳児ひよこ組
- ④今までの経験や自身の子育て経験を生かして、少しでも良い保育が出来る様に努力します。



- ①鳴海 花菜子 (なるみ かなこ)
- ②岩手県
- ③栄養士
- ④栄養士として、学校で学んだことを活かして、少しでも早く環境に慣れ、安心・安全な給食を届けられるように頑張ります。



- ①阿部 義弘 (あべ よしひろ)
- ②青森県
- ③用務員
- ④用務員として採用され四カ月過ぎましたが、何事にも一生懸命取り組む姿勢でがんばります。

## 事務局



- ①越膳 寛文 (えちぜん ひろふみ)
- ②青森県
- ③地域連携センター
- ④これまでの経験を活かして、本学の発展に少しでも貢献できるよう精一杯努力する所存です。よろしくお願いします。



- ①佐藤 菜穂子 (さとう なおこ)
- ②青森県
- ③研究支援・地域連携課
- ④挨拶の聲が響く明るいキャンパスで、自分に与えられた持ち場を通してお手伝いできるよう精進して参ります。



- ①佐藤 香織 (さとう かおり)
- ②秋田県
- ③国際交流センター
- ④日本語の授業や留学生支援を担当します。留学生の日本語力が向上するよう、工夫を重ねていきたいと思っています。



- ①佐藤 花央里 (さとう かおり)
- ②秋田県
- ③国際交流センター
- ④人とのつながりを大切に、本学をはじめ青森県の魅力をお伝えできればと思います。よろしくお願いします。



- ①芳賀 恵美 (はが めぐみ)
- ②秋田県
- ③図書館情報センター
- ④今年度から図書館にラーニングコモンズがオープンしました。進化する図書館と共に私自身も成長していけるよう頑張ります。



- ①山口 優貴 (やまぐち ゆうき)
- ②青森県
- ③入試広報センター
- ④昨年7月より入試広報センターにいます。未だに戸惑う事ばかりですが、笑顔を忘れず、皆様の力になれるよう頑張りたいと思います。

# 学園共通

## 新施設紹介～学生の声より～



**\*2号館1階：**「学生ラウンジは昼食やちょっとした雑談の場として活用しています。新サークル室はメンバーが集まりやすく、話し合いやメンバーの親睦を深める場としても利用できるようになりました。また、共用サークル室は机とイスがあるので、大人数でも使えるのが便利です。」

(学生記者 久保 咲絵)



**\*7号館ラーニングコモンズ：**「飲み物を持ち込んでじっくり打合せが出来る空間ができて嬉しいです。机や椅子も用途に応じて使い分けができるし、ホワイトボードも常備されていて便利です。何よりも明るい空間でオシャレなので、いつでも使いたくなります」 (経営法学部2年 佐野 将平・工藤 穂南)



**\*2号館ピアノ練習室：**「以前より広くなり、空調調節もできるので、長時間でも快適に練習ができます。防音もしっかりしていて、隣の音を気にせず集中できます。部屋数も増えて、利用しやすくなりました。」 (学生記者 田中 ひかり)

## 青森市横内町内会との連携協定締結

3月27日、青森中央学院大学と青森中央短期大学は、青森市横内町内会と包括的な連携協定を締結しました。

大学のキャンパスが所在している横内町内会とは、これまでも地域の方々と学生・教職員が様々な交流活動を行ってきましたが、この度の協定は、組織的に相互に協力し、安全・安心で活力ある地域社会の形成に寄与することを目的としています。

今後は、新設された地域連携センターが窓口となり、①まちづくりに関すること、②災害時支援・防災活動に関すること、③生涯学習・健康スポーツに関すること、④健康福祉の増進に関することを中心に取り組んでいきます。具体的には、定期的な連携会議の開催や、町内会主催のイベントへの学生の積極的な参加、学生のフィールドワークの場として協働して地域課題の調査・研究等に取り組んでいきます。



## 学生プロジェクト支援制度

今年度より、本学園設置校に在籍する学生を対象とした「学生プロジェクト支援制度」がスタートします。この制度は、自ら企画し自主的に取り組む活動や事業を支援するため助成する制度であり、学生個人・グループによる事業を広く公募した上で事業内容を選考、「認定プロジェクト」として採用し、活動資金の助成を行うものです。また、必要に応じて教職員の助言を求めながらプロジェクトを達成し、その経験を基に学生生活を充実したものにすることを目的としています。

プロジェクトは、企画の独創性、他の学生からの関心度や大学・地域への貢献度、計画の実行可能性と達成目標、プロジェクト内容・趣旨と予算との整合性など、学生のみならず社会人としても必要となる企画力が求められます。また、中間報告・最終成果発表を行うことで、自らのプロジェクトにおける活動中のつまづきへの見直し、解決方法の模索、最終的にはプロジェクトの達成に至ることを目標としています。この制度を通じ、企画力や企画を運営する能力を学び取ることを期待しています。

# 開催行事案内

## 青森中央学院大学サテライトキャンパス FRIENDLY WINDOW

所在地：青森市新町2-7-13（新町通り柳町交差点） 開館時間 10:00～18:00

### ●青森中央文化専門学校公開講座

時間：13:00～15:00

日時	内容	対象	材料費
6月23日、7月7日・28日	こぎん刺し講座 基礎 初心者コース～コースター～ 経験者コース～コースター～	一般・学生	実費
8月25日、9月8日・22日	こぎん刺し講座 応用 初心者コース～ブローチ、小物入れ～ 経験者コース～巾着～		
10月6日	簡単ソーイング～巾着作り～		

## 青森中央学院大学・青森中央学院大学大学院

### ●ワーク・ライフ・バランス～仕事も家庭も地域生活も～

会場：学術交流館

日時	テーマ	講師
6月28日(土)	13:00～16:30	基調講演 ワークショップ「ワークライフバランス(仮)」
		大妻女子大学 教授 宮田 安彦 氏

## 青森中央短期大学

### ●Sessions on the Arts 2014/ 響感アート交流地点

会場：学術交流館

日時	内容	出演	対象
8月24日(日)	13:00～15:00	ピアノを楽しもう 松田 昌公開ワークショップ	一般 (WS50名・聴講200名)
		ピアノ奏者 松田 昌 氏	

### ●公開講座

会場：青森中央短期大学

日時	内容	対象	材料費
9月27日(土)	10:00～12:00	デッサン教室	一般 実費
10月4日(土)	10:00～12:00	心を繋ぐおばあちゃんの郷土料理 Vol.2	一般 500円

## 青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

### ●青森中央経理専門学校公開講座

会場：青森県総合社会教育センター

日時	内容	対象
8月28日(木)、29日(金)	パソコン教室 Word・Excelの基礎	一般

### ●青森中央文化専門学校公開講座

会場：青森中央文化専門学校

日時	内容	対象	材料費
7月26日(土)	10:00～15:00	デッサン教室	幼児・小学生 中学生 高校生 実費
8月8日(金)	10:00～15:00	ファッションサマースクール ～スカート、キャミワンピ、マイブック作り～	
8月9日(土)			

# 地域連携センター開設

本学は地域に開かれた大学として、これまで本学の有する人的資源、知的財産、施設を活用し、地域社会との緊密な連携を推進し、地域貢献を実践してきました。

しかし、地域は人口減少、高齢化、介護・福祉問題など、これまで以上に多くの課題を抱え、対応に苦慮しています。働き手が不足する中で、心豊かに健康に暮らしていくためにどうすればいいのか、これは行政だけに任せるのではなく、地域の「知の拠点」である本学が県内公共団体と積極的に連携して課題解決に取り組むことが求められ

### 地域連携センター長 高山 貢



ています。

本学は、これまでの地域貢献活動をより効率的に進め、地域のニーズに応じた課題解決及び地域における人材の育成に貢献し、生涯学習の普及に努め、地域の振興と維持・発展に寄与するコントロールセンターとして、地域連携センターを立ち上げました。

“地域と組み「知」を形に!”を目標に地域連携センター職員一丸となって頑張ります。よろしくお願ひします。



## 「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、10月発行予定の91号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■91号応募締め切り：8月30日

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。

※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生在が撮影した未発表作品に限ります。

※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。

お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp



携帯から応募の際は  
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第90号

発行日：2014. 5.15

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<http://www.aomoricgu.ac.jp>

<http://www.chutan.ac.jp>

## 「こぶしの花」編集委員

### 編集長

松島 正起  
木村 貴子  
坪谷 輝子  
岩葉 悦子  
中田 尋美

### 加藤 澄

浜中 幸美  
佐藤 紋子  
赤坂 敦子  
高橋 晴美

### 学生記者

久保 咲絵  
齋藤 景一  
太田 遥  
矢田 芳梨

相馬伽奈子  
須藤 友英  
田中 春菜

新山 雅貴  
豊島絵里菜  
田中ひかり